

子育て支援だより

「子育てワンポイントアドバイス」

第81回 「いじめをしない・いじめに負けない」

こころの相談員 前田 里美

いじめに関する事件が後をたちません。あまりにもむご過ぎて、人間のする事か！と嫌悪感を覚えます。そして、いじめは犯罪だということを大人も子どもも自覚するべきでしょう。しかし、人をおとしめて優越感を感じたり、自分の嫌な感情を人で処理してしまうのは人間の性なのかもしれませんが、DVやパワハラ・セクハラも大人のいじめと考えれば、子どもの世界だけではないでしょう。ならば、『いじめをしない・されてもそれに対処できる人』になってほしいと思いませんか？

例えばお母さんが「嫌だよ」「嬉しいね」「痛いよ」等の表情と声かけをたくさんしてあげる。そんな幼少期からの親子のやり取りによって、人の気持ち・感情がわかるようになるでしょう。また、以前は兄弟げんかや遊びで力加減や事の顛末を自然に学んだのかもしれませんが、最近は力の加減が出来なかったり、そんな事をするとうなるかという見通しが立たない子も多くいるようです。これは、人との交流や体験+大人の声かけによって身に付けていくものでしょう。一方はふざけているつもりで、相手は嫌がっていることを上手く伝えられないというのはよくあること。相手がどう感じるかを想像でき、嫌な気持ちをちゃんと伝えられる、そんな人になってほしいです。

また、本人は気付いてないかもしれませんが、「自分のストレスを他人で解消する」という場合も多々あるということ。自分が虐げられていたり、不満やうっぷんが溜まり、そのはけ口として他人へのいじめを行うわけです。親のプレッシャーや不安が子どものストレスになることもあります。だからといって、許されることではありません。自分のストレスは自分で処理しなければなりません。その為には、運動で発散したり、人と話す、音楽を聞く、そのストレスを遠ざけたり軽減する等のストレス解消法を身に付けることであり、これはいじめをされる側の対処法にもなります。

「うちに限って・・・」と誰しも思いがちですが、日頃から「もしもの場合どうする？」などの会話をもち、何でも話せる環境を作っておきましょう（いつも耳にタコという程書いてる気がしますが）。「親を心配させたくないから言わなかった。」とよく聞きます。その裏には、「いじめられる私はダメな子」との思いもあるのだと思います。「親が子の心配するのは当然。言ってもらえない方が悲しいのだ。」ということを知ってもらえるといいですね。そして、「どんなあなたでも大切な私達の子ども。」だと・・・

いじめられていることを人に言うのも、逃げるのも恥じゃない。自分の出来る事には限りがあるのだから、誰にでもいいから助けを求めてほしいです。これからも、皆が考えていければ何かが変わるかもしれません。

※前田相談員は、朝日小学校・中学校で相談活動を行っています。